

## 12. 義務教育の中で教えておきたい人権課題です

子どもたちに教えておきたい、学ばせておきたい人権課題はたくさんあります。例えば下記のようなものがありますが、これらを扱うか扱わないかで、子どもたちの生き方に大きな影響を与えます。あなたが担当している子どもたちが学んでいるかを点検してみてください。（□に学んでいれば○を、自分が教えていれば○を入れてみましょう）

1 □	<b>「部落」差別の問題</b> 【部落差別の解決は部落の歴史や現実を学ぶことから】 歴史的に作られた部落差別は、今も解消していません。「部落」という言葉を使って差別する人がいる限り、今は制度的に存在しない部落への差別が続きます。人は自らの親や出生地を選ぶことはできません。心の問題で終わらせず、平等を広げてきた歴史を学び、人間の尊厳を伝えていきましょう。
2 □	<b>障がいのある人の人権</b> 【障がいがあるかないかはその人の責任ではない】 「障がい者」の人権を保障するためには、周囲の環境や関係が重要です。障がいの有無で権利が左右されないよう、ノーマライゼーションやバリアフリーを進めましょう。制度や設備の整備だけでなく、「共に学び、共に生きる」ことで、障がい者の「完全参加と平等」を実現していくことを伝えていきましょう。
3 □	<b>女性の人権</b> 【本当に「日本の女性は強くなった」のかな？】 日本の男女平等ランクは世界146か国中125位（ジェンダーギャップ2023）。政治経済は言うに及ばず、職場や家庭など多くの分野で男尊女卑が続いています。セクハラやDV、性犯罪は言語道断。子どもたちにはあらゆる場面で男女平等が進むよう投げかけ、教室内にもジェンダーフリーを進めましょう。
4 □	<b>高齢者の人権</b> 【時間は平等。生きている限り必ず年を重ねます】 高齢化社会が進む日本。高齢を理由に差別されたり、孤独や虐待など高齢者への人権侵害が続いています。障がいや病気がかかえがちな高齢者が生き生きと暮らせる社会は、あらゆる年齢と特性を持つ人が尊重される社会です。子どもたちには地域の高齢者との交流の場を日頃から設けていきましょう。
5 □	<b>子どもの人権</b> 【今こそ「子どもの権利条約」の実現を】 いじめや体罰、虐待や性的搾取、ヤングケアラーなど、子どもの人権が危うい事態が続いています。幼く未熟なイメージの「子供」ではなく、人として尊重される「子ども」を冠した「子どもの権利条約」を具体的な事例を上げて討議させ、子ども自身と子どもたちを支える環境を改善しましょう。
6 □	<b>在日外国人の人権</b> 【生粋の「日本人」って何ですか？】 「在日〇〇人」だからとか、国籍や民族がどうのこうのと言う前に、「在日」の歴史や日本人の成り立ちを学ばせましょう。壮大な交流と混住が日本人を作りあげてきたのです。すべての人が国籍や民族を隠すことなく本名を名乗って生きられる社会こそ、歴史的にも今日的にもグローバルスタンダードだと教えましょう。
7 □	<b>外国人比較と偏見</b> 【白いから憧れて、黒いからジロジロなんて……】 私たちが外国に行けば外国人として扱われます。外国人を優しくもてなせる日本社会でありたいですが、黒塗りメイクを面白がったり、肌の色や容姿を好奇の目で見たりするのとは差別です。移民や難民、入管問題も人権課題です。差別や偏見にあらがう大坂選手や八村選手の言動にも学ばせたいですね。
8 □	<b>セクシャルマイノリティの人権</b> 【性同一性障害は「障がい」なのか？ LGBTQ+に市民権を】 人にとって大切なのは心と体の健康です。性については、それぞれの想いや考えが尊重されることが重要です。周囲の無理解や偏見の中、性自認を進める性同一性障害（性別違和：LGBTQ+）の人たちがいます。1割近くと推定されているLGBTQ+の人たちが住みやすく、多様性を尊重する指標だと教えましょう。
9 □	<b>アイヌ民族の問題</b> 【日本は「単一民族国家」なのか？】 蝦夷地（北海道）や千島樺太で独自の言語や文化を保持してきたアイヌ民族。江戸時代の松前藩支配を経て、「旧土人」とされた明治以降、差別と同化が進みました。ようやく近年、アイヌ新法が成立し、先住民族の誇りの回復と理解を広めるため国立アイヌ民族博物館（ウポポイ）が開館した歴史を教えましょう。
10 □	<b>琉球・沖縄問題</b> 【400年の独立国は、近現代の日本に翻弄されて】 15世紀以降、琉球王国の繁栄で独自の文化を築いた沖縄。江戸時代の薩摩藩属国化を経て、「琉球処分」で日本に併合された明治以降は同化が強いられ、太平洋戦争の地上戦で県民12万人余が戦没。現在も約70%が集中する米軍基地問題を含め、差別的扱いの歴史を教えましょう。